

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ----- )

事業所番号	0672500436		
法人名	最上町		
事業所名	最上町認知症高齢者グループホーム やすらぎの家		
所在地	山形県最上郡最上町大字向町64-3		
自己評価作成日	平成 28 年 7 月 15 日	開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院・老健・包括支援センターと併設しており、利用者・家族が安心して利用できる体制が整っている。訪問やボランティア等の受け入れを積極的に行い、利用者を楽しんでいただける時間を大切にしている。また地域の行事等にも積極的に参加し、ホーム内外での交流の場を設けることで、地域に開かれた施設作りに努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設された福祉関係施設へ建物内で移動できる恵まれた立地条件に加え、開設後16年の経験の積み重ねが、認知症ケアの本質に基づき確立され定着してきている。住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、家族との関係を大切にしながら、多様な地域との交流の機会を創出している。昨年度から認知症通所介護事業所を併設し、毎日通いの人が入ることにより、グループホームの利用者にとっても新たな刺激となり、地域との風通しが良くなってきている。管理者及び職員は、綿密にケアの詳細を記録に残し、伝達を徹底するなど事務レベルにおいても管理が行き届いている。管理者は現状に満足することなく、個別ケアの徹底など更なる向上を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 28 年 8 月 9 日	評価結果決定日	平成 28 年 8 月 23 日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で入居者個々のペースに合わせた「ゆっくり・一緒に・楽しく」の支援を心掛け、地域との交流を図りながら、住み慣れた地域での生活が継続できるよう努力している。	管理者及び職員は、住み慣れた地域で暮らし続けるという、地域密着型サービスの意義を踏まえ、「ゆっくり・一緒に・楽しく」の事業所理念を共有しながら、個々のペースに合わせたケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高校の運動会見学や同法人施設との交流会、地域の祭り見学等、また訪問の呼びかけも積極的にを行い、小学生から高齢者まで幅広く交流している。	地元高校の運動会やお祭り見学に出かけたり、また、小学生から高齢者まで幅広い年齢層で構成されているコーラス隊の訪問を受けたり、更に、地域の方を招いての芋煮会では、商店街の方々が、さんま焼きを担当するなど幅広い交流をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等を行い、地域の方々に認知症の方への支援方法などを話す機会を設けたいと思っているが、実践できていない状況である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、話し合われた内容や意見等に対して、毎月開催される業務検討会で職員全員に伝達、検討を行いサービス向上に繋げている。	包括支援センター、病院、老健、高校長、民生委員、商店街代表、家族代表などの委員により2か月に一回開催されている。施設の問題をオープンにして意見や提言をもらい、運営に活かしている。会議録は玄関に置きいつでも閲覧できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター主催のサービス機関連絡会議への参加を通じ、情報提供を行っている。また福祉課が同敷地内にあるため、常に連携を取り、相談できる体制ができている。	役場の福祉課や包括支援センターが、同じ敷地で建物内から行き来ができるという好条件もあり、常に連携がとれ、相談できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を設置し、拘束廃止に取り組んでいる。玄関は殆ど毎日開放しており、拘束を行わないケアに努めている。	併設の老健と合同で身体拘束廃止委員会が設置され、個々の事例について取り組みが話し合われている。職員は身体拘束の具体的な行為およびその弊害についてよく理解しており、危険が予知される場合は、居室の壁にダンボールを貼ったりするなどの工夫により拘束をしないで済む取り組みをしている。なお、玄関には施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の報道や研修会等あれば、申し送り、復命書で伝達を行い、週1回の夕方ミーティング時にも話し、虐待防止の意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について学ぶ機会を設けていないが、以前、活用していた方がいたため、今後必要と思われる利用者がいれば、家族、社協等と相談していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者、家族が不安にならないよう説明し理解と同意を得て利用して頂いている。解約時も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、家族等が意見、要望を気軽に伝えるようにしている。また、運営推進会議に家族代表、利用者代表が参加することで、発言できる場を設け、運営に反映できるよう努めている。	家族が面会の際は、声をかけ、何でも言える雰囲気づくりをしている。年1回は家族との交流会を開催し、意見を聞くようにしている。また玄関に意見箱を設置し、家族がいつでも匿名で意見を出せるようにしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催する職員全員参加の業務検討会で、意見等出せる機会を設けており、また日々業務中でも気軽に意見を出せる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、各手当て、定期昇給等行いながら、職員登用制度も取り入れ、職員一人ひとりが向上心を持ち仕事に取り組めるよう努力している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上対策については、施設外の派遣と施設内での職員研修会を行っている。特に派遣研修については、研修案内を吟味し、職員個々の適正に合せ計画的に派遣している。また新人、異動職員に関しては3ヶ月間のOJTを実施している。	資質向上委員会を設け、施設内研修の企画、実施をしている。施設外研修については、本人の意見も聞きながら経験や力量を勘案し派遣している。研修結果は、発表したり復命書の回覧等により全員が共有できるようにしている。OJTにも取り組んでいる。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最上・村山地区GH連絡協議会に参加し、定期的に情報、意見交換を行っている。また他施設への実務派遣研修を行い他施設の良いところを取り入れるなどサービスの質向上に繋げている。	GH連絡協議会の研修や情報交換のほか、昨年度から、独自に他GHに1泊2日の実務派遣研修を行い、サービスの質の向上に活かす取り組みをしている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に家族、担当ケアマネ等から情報提供してもらおう事で課題等の把握を行い、直接本人と話しをすることで、良好な関係づくりができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時、アセスメント時に十分な聞き取りを行うことで、状態把握に努め、課題や要望等をケアプランに反映させるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や申請の時点でサービス情報の提供を行い、その人が必要とするサービスが受けられるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の得意なこと、出きることを把握し一緒に行うことで、支えあう関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を伝えながら、家族の理解と協力を得られるように働きかけ、面会や行事への参加、外出、外泊等日常生活上での支援を共に行っているよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容店など、入所前に利用していた店を継続して利用できるよう、地域の人との関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良好に保てるよう、個々の相性等把握し、座る席なども配慮しながら、孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後併設老健施設へ入所するケースが多く、終了後の関わりについては、老健相談員を通じ、情報提供してもらいながら、支援、相談できる体制ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントツールを参考に、これまでの生活から本人の思い、希望等の把握に努めている。また、日々の会話の中から、本人の思いや希望等聞きだすように努めている。	前回の目標達成計画に掲げた個別ケアを重視し、アセスメントシートはMDSとセンター方式を併用し、本人の、出来る事、思いや意向の把握に努めている。また日々の関わりの中から思いを汲みとるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリーや家族からの聞き取りや事前記載によるフェイスシートの活用、利用者との会話の中から情報を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他利用者と交流したり、ひとりで好きなことが自由にできる時間を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは毎日チェックしたものを1ヶ月毎に評価しプラン見直し時に反映できるようにしている。ケア状況に関し、気づいたことがあればその都度相談しながら、介護計画の見直しを行っている。	モニタリングは毎日行い、月毎に評価し、また月1回の業務検討会で担当から、家族の意見も含め報告し全員で話し合っている。介護計画は特に変化がなければ6か月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に関しては、各担当者が入力行うが、その都度気づいたことは勤務者がノートに記載し担当が把握できるようにしている。申し送りノートも活用し情報共有を図っている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等の訪問、地域の祭り、イベント等にできる限り参加している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院との連携が取れており、状態に合った適切な医療が受けられている。かかりつけ医が時間を見て施設の様子見に来所されるなど、良好な関係作りができています。	併設の町立病院への受診は職員が対応している。院長やかかりつけ医も、気軽に立ち寄り様子を見てくれるなど、安心できる関係が築かれている。他の医療機関への受診に関しては、日々の様子を記載した書面を家族に持参してもらい、受診結果は家族・事業所が共有できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の看護師長が兼務体制になっており、不安なことがあれば相談できる体制ができています。また必要時は病院の付き添い、医療行為に関してもスムーズに行うことができています。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所長が併設病院の院長であることから、利用者に関して、職員、家族は安心して相談できる環境であり、適切な医療サービスが受けられる。また病院看護師長は運営推進委員であり、情報交換等行っており協力が得られる関係づくりに努めている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になった場合のことを考え、早い段階から家族等と話し合いを行い併設老健または特老へ入所申請している。医療面については、かかりつけ医と相談しながら、本人により良い医療が受けられるよう努めている。	食事を飲み込めない・風呂のまたぎが出来ないなど事業所での生活が困難になった場合のことを考え、早い段階から事業所でできる事、出来ないことを家族に説明し、老健や特養への申請を勧めている。医療面については敷地内に病院があり医療者との連携が取れ、緊急時の対応が可能である。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故発生時の対応マニュアルがあるため、それに沿って対応できるよう、目の付くところに提示している。また併設病院へすぐ受診できる体制ができています。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域、消防署等の協力を得ながら行うウエルネスプラザ全体の避難訓練、併設老健と合同での夜間想定避難訓練、また非常召集訓練、防災機器の取り扱い説明会等行っている。	年一回は、火災を想定し、プラザ全体の避難訓練を、地域、消防署の協力の基に大々的に行っている。そのほか併設老健と合同での避難訓練も実施している。今後、地震発生時の訓練についても消防署のアドバイスを受けたい考えである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応については、職員個々の対応にバラつきが見られている。常に目上の人である事を念頭に置き対応できるようにしていきたい。	業務検討会で、人格を尊重した対応、言葉かけについて話し合っている。職員は認知症ケアについて理解しており、本人を傷つけない、さりげないケアが行われている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で様々な自分の思いや希望を遠慮なく言えるような声掛け等行っている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人らしい生活とまでは行かないが、できる範囲で希望に沿った支援が行えるよう心掛けている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の化粧支援、外出時の服装等のおしゃれ支援を行い、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備、片付けに関してはできる範囲で行っているが、一人ひとりの好みや力を活かす努力が不足している。	通所介護を併設してから、昼食は外注することもあるが、自家菜園からの収穫やいただき物を利用し、基本的には、利用者と職員と一緒に三食とも施設内で手作りしている。食べる楽しみに変化を持たせ、流しそうめん外食なども取り入れている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが良い食事の提供に努めている。食の細かい人には、その人にあった食事形態を提供し、水分の提供もその人の状態に応じ支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々の力に合わせて、声掛け、見守り、介助にて歯磨き、うがい等の口腔支援を行い、清潔に努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めてはいるが、チェックが排便のみとなっており、排尿の把握が徹底されていないため、早急に個々の排泄パターンが把握できるようにする。	夏場の脱水症の危険性を考慮し、現在は尿も含めた排泄チェックを実施している。夜間のおむつ使用者が1名いるが、日中は全員がトイレを使用している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックは毎日行っており、排便状況を確認している。便秘予防には手作りヨーグルトを定期的に提供している。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に沿った入浴は難しく、事業所の日課に沿って入浴してもらっている状況である。しかしその人のペースに合わせてゆっくり入浴を楽しめるよう努めている。	浴室は数人が同時に入浴できる広さはあるが、ゆっくり入浴を楽しめるよう、希望により個浴に対応している。少なくとも週3回は入浴できる。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調、希望に合わせ、ゆっくり休息できるよう支援を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を理解できるよう、薬剤情報ファイルを作成。服薬介助は誤薬がないよう2人で確認するようにしている。服薬中の経過観察において、変化時には看護師長に報告、その都度指示を受けている。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできる事を考え畑仕事や軽作業、レクリエーション、外食等気分転換を図りながら、楽しみのある生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画を作成し季節に合わせたバスハイク等実施。地域の夏祭り、商店街のイベント等に出来る限り参加し外出の機会を増やしている。また家族の協力を得ながら、外出、外泊を行っている。	計画されたバスハイクなどのほか、地域の行事への参加、自家菜園の草むしりや収穫、花壇の手入れ、中庭でのお茶飲みなど外気に触れる機会を積極的に取り組んでいる。また、家族の協力を得て、お盆の帰省、外泊などをする利用者もいる。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない利用者が増えており、殆どの利用者は小遣い等施設預かりとしている。しかし外食時など自分でお金を払ってもらうなど、お金を使えるよう支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望、または必要に応じて電話が利用できるよう支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間の装飾はその季節に合ったものを心掛け、テーブル、ソファ等も利用者が使いやすく利用でき、居心地よく過ごせるよう配慮している。	共用空間は、天窗からの明かりが心地よくさし込み、ワンユニットの施設にはゆったりとした広さで、舞台風の座敷と、台所が繋がったフローリングのスペースで構成されている。自室前には造り付けのベンチがあり、温度・湿度は事務室で管理され利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごすことが出来る。壁には季節に併せた写真や利用者の作品が展示されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を工夫し、一人になれる場所、利用者同士と一緒に過ごせる場所を確保し、思い思いに過ごせるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた馴染みの家具等を持ち込み、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	本人の希望や、身体機能に併せ、畳敷きやフローリングの部屋がある。各居室に洗面所が設置され、入口には好みののれんをかけ、テレビや小型冷蔵庫・使い慣れた家具・調度品を持ち込むことができ、居心地良く過ごせるようにしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内段差がない為、車イス、歩行可能な利用者は安全に移動できるようになっている。また居室・廊下・トイレ等手すりが設置されており、玄関にはセンサーを設置し安全に過ごせるよう配慮している。			